様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

# 科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２６ 年　 ５ 月 ２２ 日現在

機関番号：１３３０１
研究種目：基盤研究(C)
研究期間：2009～2013
課題番号：２１５９２７９７

研究課題名（和文）妊婦のエンパワメント尺度の臨床適用と検証

研究課題名（英文）An empowerment scale for pregnant women: its application and verification during prenatal education

研究代表者
亀田　幸枝（KAMEDA, Yukie）

金沢大学・保健学系・准教授

研究者番号：４０３１３６７１

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　3,400,000円、（間接経費）　1,020,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、妊娠・出産・育児に向けた妊婦の主体的行動を支援するために妊婦のエンパワメントを把握し、出産前教育の評価指標となる尺度を開発することである。臨床での尺度の有用性を確認し、修正した尺度の信頼性・妥当性を検討した。調査の結果、エンパワメント尺度を用いてクラスに参加した妊婦のエンパワメントの変化が把握できること、また、エンパワメントの高さは妊婦の主体的行動に影響することが示された。よって、エンパワメントに介入する意義、出産前教育の評価指標としての有用性が示された。また、尺度の修正版を作成し、妥当性と信頼性を確認した。今後、更に尺度を洗練させ、効果的な出産前教育を検討することが課題である。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this study was to promote the positive attitude of pregnant women toward pregnancy, childbirth and child care through empowerment. An empowerment scale was used during prenatal education to measure changes in empowerment, and the reliability and validity of the scale was evaluated. Results showed that there was a significant increase in the empowerment of pregnant women who participated in prenatal classes, and that women with increased empowerment showed a more proactive, positive attitude toward pregnancy, childbirth and child care. It can be concluded from this study that empowerment of pregnant women is possible through prenatal education and care, and that the empowerment scale is a useful instrument. Further research to produce a modified version of the scale would provide better insight into how to provide effective empowerment and care for pregnant women.

研究分野：助産学、母性看護学

科研費の分科・細目：看護学・生涯発達看護学

キーワード：エンパワメント　尺度　妊婦　臨床　検証

## １．研究開始当初の背景

出産前教育の目的は、妊娠による心身や環境の変化に適応でき、安全で満足な出産を経験し、出産に続く育児・家族形成に順調に向かうことができることである。出産前教育の効果やエビデンスに関するコクラン共同研究体の報告によれば、出産前教育の効果は不明であるとされている（Gagnon, 2007）。その背景として、クラス内容・方法は多岐に渡り、クラスの評価指標や評価方法に課題があることが指摘されていた。従来、出産前教育の効果は、産科学的視点から報告されてきた。しかし、出産を「親になる過程」、「人間の成長過程」と捉えると、産科学的視点だけではない評価も求められる(Enkin,1990; Sheare, 1990; 川島, 2007)。そこで我々は、人の主体的な行動変容につながると考えられる認知・心理的状態に着眼し、出産に対する自己効力感尺度、妊婦のエンパワメント尺度など、出産前教育の効果を測定する尺度開発に取り組んできた。本研究課題では、エンパワメント尺度の臨床での適用と有用性の検討、ならびにエンパワメント尺度の修正・洗練を課題とした。

## ２．研究の目的

（1）出産前クラスの評価ツールとしてのエンパワメント尺度の有用性、妊婦のエンパワメントの関連要因について明らかにする。

（2）エンパワメント尺度修正版を作成し、信頼性・妥当性を明らかにする。

## ３．研究の方法

（1）出産前クラスの評価ツールとしてのエンパワメント尺度の有用性、関連要因の検討について

表1　調査時期と調査内容

| 調査内容＼調査時期 | クラス前 | クラス直後 | クラス後1ヶ月 |
|---|---|---|---|
| 妊婦のエンパワメント（27項目） | ○ | ○ | ○ |
| クラス評価（10項目） | | ○ | |
| 出産･育児に向けての行動（7項目） | | | ○ |
| 基礎情報（10項目） | ○ | | ○ |

出産前クラスに参加した妊婦を対象に、クラス前、クラス直後、クラス後１ヵ月の３時点において、自己記入式質問紙調査を実施した。エンパワメント尺度は27項目、1-4 点のリッカート評定を用い（得点範囲：27-112 点）、得点が高いほど心理的エンパワメントが高くなるように設定した。分析には、統計解析ソフト IBM SPSS Ver.20を使用し、妊婦のエンパワメント得点の推移、エンパワメントの関連要因の分析には t 検定、相関係数の算出、重回帰分析を、エンパワメントと行動変容との関係については単回帰分析を行った。

（2）エンパワメント尺度修正版の作成と信頼性・妥当性の検討について

Version.1作成後に報告されたエンパワメントに関する国内外の文献レビュー、国内外の研究者から届けられた意見等を踏まえ、研究者間で構成概念を検討し修正版尺度を作成した。統計解析ソフトIBM SPSS Ver.18、Amos17.0を使用し、記述統計、探索的因子分析による因子構造の確認、Locus of Control尺度との基準関連妥当性の検討、クロンバックのα係数の算出による信頼性の検討を行った。

倫理的配慮：

本学の医学倫理審査委員会の承認を得て行った。対象には、研究の目的・方法について文書で説明し、同意を得た上で実施した。研究への協力に同意しない場合でも不利益を被らないこと、一旦同意した後でも、いつでも協力の取り消しができること、プライバシーの保護に最大限に努め、個人情報は研究の目的以外には一切使用しないことを保証した。なお、研究方法（１）に関しては、縦断的調査のため、データの取り扱いについては連結可能匿名化を行った。

## ４．研究成果

（1）出産前クラスの評価ツールとしてのエンパワメント尺度の有用性について

北陸地方にある４つの産科施設で行われている出産前クラスに参加した妊婦 125

名（有効回答率 96.0%）から得られたデータを分析対象とした。クラス後１カ月時点まで回答が得られたのはそのうち 61 名(有効回答率 47.0%）であった。

①エンパワメント得点の推移

エンパワメント得点（N=125）は、クラス前 82.8 点±9.6(Mean±SD)、クラス直後 87.7 点±9.6 であり、直後の方が有意に得点が高かった（p＜.001)。クラス前後のエンパワメントの変化量の範囲は-5 点～23 点、変化量の平均値は 4.9±5.2 点であった。クラス前よりもクラス直後に得点が低下した妊婦は 14 名（11.2%）おり、エンパワメントが下がるクラスの把握も可能であることが示された。

クラス前からクラス後１ヵ月までのエンパワメントの得点推移については、クラス前 83.4±10.1 点、クラス直後 88.6±9.6 点、クラス後１ヵ月 87.2±9.4 点であり、各時期で有意に得点が変化していた（図１)。

以上より、エンパワメントは介入によって操作可能であり、どのような介入を行うかによってはエンパワメントを上下させることが示され、クラスの評価ツールとしてエンパワメント尺度が有用であることが示された。

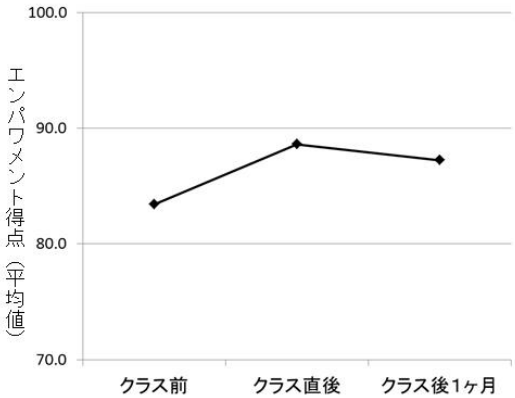


図１.エンパワメント得点の推移（N=61）

②エンパワメントの関連要因について

属性の中で、エンパワメント得点（クラス前）との関係が示唆された項目は「出産歴」、「妊娠経過」、「合併症の有無」、「希望した妊娠か否か」であった。つまり、経産の方が初産よりエンパワメントが高かった。一方、妊娠経過が順調でない、合併症がある、希望妊娠でなかった妊婦は、そうでない妊婦よりもエンパワメント得点が低い傾向にあった（p= 0.05～0.1)。合併症をコントロールしたり、妊娠経過が順調にいくための予防的支援の重要性や、希望した妊娠でなかった場合には、その背景を探りながら個別に対応することの必要性などが示唆された。クラス参加によるエンパワメントの変化量と属性間には有意な差はみられず、エンパワメントの変化には属性以外の要因が関連していることが示唆された。

クラス評価とクラス前後のエンパワメント変化量との関係性については、「クラスに参加してよかった」(β=.22, p＜.012)「相談できそうな知り合いができた」(β=.21,p＜.017)という参加者の思いが、エンパワメントの高まり(変化量)に影響していた（$R^2$= .95)。

③エンパワメントと出産・育児に向けた行動との関係

クラス直後のエンパワメント得点は１ヵ月後の出産・育児に向けた行動（以下、行動）に影響することが示された（β=.52, p＜.001)。クラス後１ヵ月時のエンパワメント得点と行動との相関係数は r= 0.54(p＜.001)であった。以上より、出産や育児に向けた主体的な行動変容には、妊婦の心理的エンパワメントを支援する意義が示された。

（2）妊婦のエンパワメント尺度修正版の作成および信頼性・妥当性について

国内外の研究者から届けられた意見等を踏まえ、研究者間で構成概念を検討し、修正版尺度を作成した。修正版尺度は 5 因子から 6 因子構造とし、項目数は 27 項目から 36 項目とした。信頼性・妥当性の検討のために、北陸地方の産科施設に通う妊婦を対象に研究協力に同意を得てアンケート調査を実施し、211 名のデータを分析対象とした（有効回答率 98.6%）。天井効果・フロアー効果、項目分析から 9 項目を削除対象とした。探索的因子分析の結果、尺度項目は計

27 項目、因子構造は第 1 因子「家族が増える楽しみ」、第 2 因子「自己効力感」、第 3 因子「自己肯定感」、第 4 因子「周囲からの支持・保証」、第 5 因子「将来のイメージ」、第 6 因子「医療者との関係性」の 6 因子が抽出され、寄与率 46.6%であり修正版尺度の構成概念を確認できた。基準関連妥当性については、Locus of Control 尺度との相関係数は 0.49 を示した。また、クロンバックのα係数は 0.88 であった。以上より、修正版尺度の妥当性と信頼性は支持されたと考える。

以上より、臨床においてエンパワメント尺度をクラス評価や妊婦健診時のパワーレス状態の把握等に活用しながら継続検討すること、妊婦のエンパワメントへの介入研究への発展が今後の課題と考える。

## ５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕（計 0 件）

〔学会発表〕（計 0 件）

〔図書〕（計 2 件）

①北川　眞理子、内山　和美、島田　啓子、亀田　幸枝他（共著）、南江堂、今日の助産（改訂第３版）、2013、244-279、338-349.

②島田　啓子、亀田　幸枝他（共著）、メディカ出版、母親学級パワーアップガイド、2011、10-17、78-83、90-99.

〔産業財産権〕

○出願状況（計 0 件）

○取得状況（計 0 件）

〔その他〕

ホームページ等

http://midwife.w3.kanazawa-u.ac.jp/

## ６．研究組織

(1)研究代表者

亀田　幸枝（KAMEDA, Yukie）
金沢大学・保健学系・准教授
研究者番号：40313671

(2) 研究分担者

なし

(3) 連携研究者

島田　啓子（SHIMADA, Keiko）
金沢大学・保健学系・教授
研究者番号：60115243

田淵　紀子（TABUCHI, Noriko）
金沢大学・保健学系・教授
研究者番号：70163657